

3, 本橋色彩に求められる基本事項の確認

3-1 犀川大橋の景観で大切なこと

これまでの色の変遷と古い写真など改めて確認しながら、まずは「犀川大橋の景観(色彩)を考える上で、「これまででも、そして今後も変わらないこと」、すなわち、犀川大橋の景観コンセプトの大切なことは以下の3点と考えます。

【犀川大橋の景観で大切なこと】

1. 周辺自然環境との調和

周辺の建築物は、様式・色彩・規模等、時代の要請や技術の進歩、経済的な豊かさの変化などからその姿を変えましたが、変わらなかった重要な景観構成要素の「犀川」「周辺の緑」「空」と常に調和する色彩が選ばれてきました。

2. シンボル性

本橋形式そのものが既に示すように、金沢市街地中心部への玄関口として常に「シンボル」であり続けてきました。

3. 金沢らしさ

様々な文化工芸が今も色濃く受け継がれている金沢は、常に美しい自己表現を追求してきました。犀川大橋の「お色直し」も常に意識されてきました。

【事務局からの提案】

上記3項目は、犀川大橋景観コンセプトとして今後も受け継いでいく

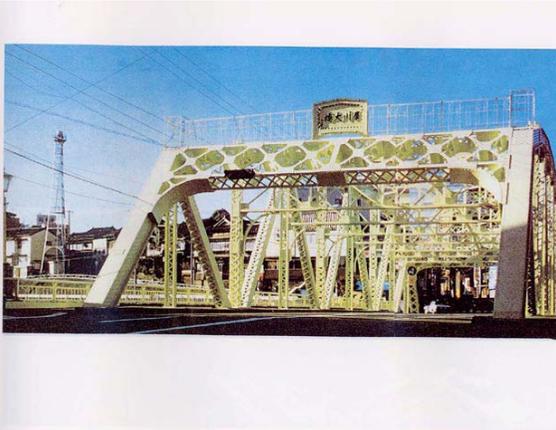
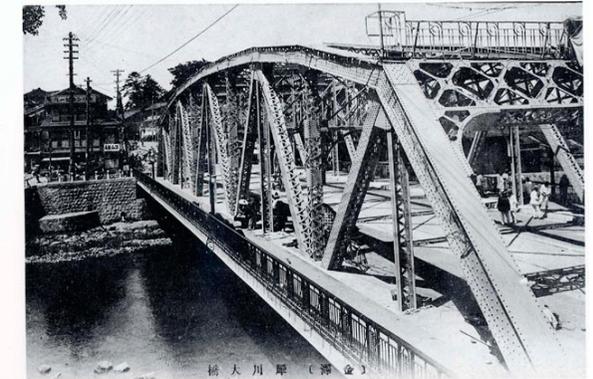


市電が通る大橋 (その一)

3番は野町と大学病院前を結ぶものであった。昭和四十年ころ。

復旧工事

完成まじかの大橋(その二)



大橋の色

昭和五十九年には市民アンケートに基づき黄緑色に塗られた。「色を問う」の姿勢で公共の色彩・環境色彩十進の心づくりに選ばれた。



市電撤去後の大橋

早朝、道路を守る月間の積雪が橋門構に掛けられた。

3-2 補修歴と色彩の変遷

1924 (大正 13) 年: 竣工 (当時は「ネズミ色」との文献記載あり)

1957 (昭和 32) 年: 横桁 11 本補修、床版補修

1958 (昭和 33) 年: 石川県から建設省に管理を移管

1966 (昭和 41) 年: 塗装 (薄いカーキ色)

1967 (昭和 42) 年: 軌道撤去、オーバーレイ、モルタルによる床版補修

1969 (昭和 44) 年: 載荷試験

1975 (昭和 50) 年: 塗装 (白系クリーム色) ※右写真【①】

1976 (昭和 51) 年: 河川改修に伴う橋台補修

1978 (昭和 53) 年: 縦桁・排水桝取替、床版部分打換、鋼板接着、下横構ガセット部分取替

1984 (昭和 59) 年: 塗装 (黄緑色) ※右写真【②】

載荷試験、鉛直材テンションバー設置、伸縮継手取替

1988 (平成元) 年: 金沢市景観条例にて建築物色彩に指導することとなる。

犀川およびその周辺地区は「伝統環境保存区域」周辺の自然・街並みに配慮すること隣接する片町・野町は「近代的都市景観創出区域」茶やグレーの建築へ基本的に指導

1993 (平成 05) 年: 塗装 (青灰色系グラデーション) ※右写真【③】

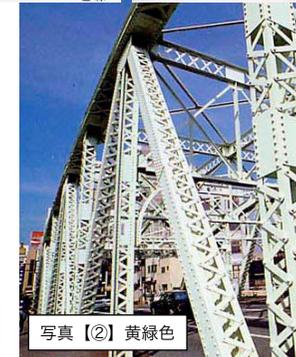
歩道部拡幅、垂直材・格点部補強、伸縮継手取替

1994 (平成 06) 年: 舗装打換、パラベット拡幅、照明灯取替

2000 (平成 12) 年: 国の登録有形文化財に指定



写真【①】白系クリーム色



写真【②】黄緑色



写真【③】青灰色系グラデーション